

いどもらごいつしよに

# ひなたを樂しむ

倉橋生

冬が来た、というよりも、ひなたが来たといおう。

野一面の廣いひなたにしても、産一枚の狭いひなたにしても、子どもの天國たることに變りはない。ほんのりと紅くふくらんだ頬、のび／＼と張りきる手足、天が下、子どもの天國でないところはなすが、こゝこそ太陽直かつの光明樂土である。子どもらが、その本性の明るさと温かさと一緒に生きてゐる。

何を苦しんでか、子どもらを部屋の中に閉ぢこめるのか。小さな窓にさす日ざしを追うて、外にはわれらの明るい世界があるのにと眺めてゐる子どもたちを、太陽が「出る、出る」とさそつてゐるではないか。かじかんだ指をかきめて、外にはわれらの温かい世界があるのにと求めてゐる子どもたちを、太陽が「來い、來い」とよんでゐるではないか。ひなたに笑う花、ひなたに歌う小鳥。なぜ子どもらだけを、ひなたから遠ざけるのか。ひなたにさえ出せば、子どもが眞に子どもになるのに。

野のひなたに、子どもらと重い外套をぬごう。ひなたのまゝことに、子どもらと究屈なセーターをぬごう。外套をぬいで駈けよう。セーターをぬいで遊ぼう。子どもらといつしよに身輕氣輕になれることは、子どもらといつしよに在る幸福であり、子どもらと一つになれる秘訣である。それは子どもらといつしよに、しつかり太陽に抱かれてゐるからである。共に太陽に抱かれてゐる時、おとなも子どももない。たゞ、一つに包まれて、相和するいつしよがあるだけだ。樂しい、いつしよがあるだけだ。或は、樂しいとも知らないいつしよがあるだけだ。ひなたの包容力の何んと大きいことか。萬物その中に解放させられてゐる。

日光浴という言葉がある。ひなたの包容の中にじつと身を置くことそのことであるが、ペランダのベットにすや／＼と眠つてゐる赤ん坊か、南様の座蒲團に背なかをまるくして、こくり／＼してゐるおばあさんには兎に角、われらの子どもには當てはまらない靜かすぎる言葉である。われらの子どもは、どこにいても、どんな中でもじつとしてゐない。ましてや強いひなたに身も輕く、氣も輕く、一ぱいに解放させられては、いよ／＼じつとしてゐられない。陽氣とは太陽の氣になることか。その陽氣に活氣づいて、潑刺としてはしやぎ出す。手をふり、足をあげ、胸をはり、額をおおむけて、日光をとらえ、日光におつかつて、一瞬だつて、ぢつと浴したりしてゐない。ペクリンの名盤『波のたわむれ』をこゝにひき出すのは、この繪の眞のこゝろを淺くし輕くするものである。

が、『ひなたの戯れ』という晝題にもじつて描いてみたいほど、子どもらは日光の波の間に亂舞している。その時、太陽も、たゞちつと子どもを抱いてゐるだけではない。子どもらと共に笑い、共に踊り出さずにはいられなくなつてくるに相違ない。そうしたひなたの世界は、日光浴なんという靜かな世界ではない。大太鼓の音が隔々に響きわたつてゐる。その音をちつと靜かに聞いてだけゐる子どもなんかいないと同じに。

ひなたのきらいな子どもはいない。先生もひなたを好まな譯ではないが、たゞ、子どもをよここばせるひなたが、自分には明る過ぎたり、強過ぎたりすることが多いらしい。そうして、たか／＼ひなたほつこにひなたを受ける(浴する)だけで、ひなたの中に踊り入つて『ひなたの戯れ』の晝中の人となれないのが常であるらしい。それどころか、ひなたからかくれようとするでもないではないらしい。目の表えた者には、常の光さえ眩しくて、それを避けようとする。それと同じく、心の表えた者が、ひなたを避けるのは尤ものことだといへばそれまでとあるが、それでは、ひなたといつしよになれないばかりか、子どもらともいつしよになれない。子どもらといつしよに、進んでひなたを樂しむ人かどうかは、先生を二つの種類に分ける大切な相違になるかも知れない。まして、ひなたの子らが、或る先生の影響で、ひなたの子でなへなるようなことがあつたら、事は頗る大まき。

## ○全國保育連合會の歩み

### ◇事務局の動き

奈良に於ける第二回全國保育大會の決議により、常任理事を以て事務局を組織した(事務局、東京都港區芝公園二番地)事務局に於ては八日、十八日の月二回の定例集會を行つて、諸般の事務にあつてゐる。各縣の保育連合會中、未結成のところ、又は結成されていても全國保連に未加盟のところもあるで、それらの保育連合會に更めて照會すると共に、東京近縣は、それぞれ事務局から人を出すことにした。

尙お、全國常任理事會を十一月中旬に開く豫定であつたが、都合により延期し、更めて適當の時開くこととした。

### ◇第三回全國保育大會打ち合せ

第三回全國保育大會は新潟縣で引き受けられることに、奈良大會で縣代表の申し出による大會決議に基き、それについてくわしい相談をするためなり、十月六日内山事務局長が新潟縣に出張、高田市で、新潟縣保育會の楠會長、根岸、井伊兩副會長及び縣の兒童課の方とも會見して、來年八月開く第三回保育大會について協議した。新潟縣からも十一月中旬打合せに上京せられることになつてゐる。猶北陸地區の相談會も續いてやる豫定になつてゐる。

### ◇機關紙保育時報

保育時報第一號は奈良の大會直後出したが、年に四回乃六回は發行する豫定である。